

2024年10月

# 令和5年度 民間企業等 長期派遣型研修 成果報告書

静岡県教育委員会



# 事業概要

目的	教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な技術、技能、システム並びに組織運営及び人材育成のノウハウ等を学ぶことにより、教員の授業力、生徒指導力、教育業務遂行力、組織運営力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資する。
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 45歳以下で静岡県の教育職員としての職務経験が5年以上の者</li> <li>・ 小中学校、義務教育学校、高等学校の専門教科（農・工・商）、特別支援学校の教員等の中から選考</li> </ul>
期間 (人数)	<p>小中学校、義務教育学校：6か月(2人)、12か月(2人)</p> <p>高等学校：12か月(3人)</p> <p>特別支援学校：6か月(2人)</p>

## 目次

### ◆研修の報告

所属 (R5年度)	研修生	研修先	ページ
静岡県立田方農業高等学校	大場 智之	ELFIE GREEN 株式会社	1
静岡県立遠江総合高等学校	杉原 譲治	浜松光電株式会社	5
静岡県立島田商業高等学校	牧野 雄貴	株式会社リクルート	8
静岡県立静岡北特別支援学校	岡島 祐美	株式会社静岡銀行	11
静岡県立東部特別支援学校	鈴木 ゆうか	加和太建設株式会社	14
藤枝市立青島中学校	池谷 和貴	株式会社静岡新聞社 静岡放送株式会社	17
焼津市立大井川西小学校	風岡 猛史	株式会社エスパルス	20
富士市立吉永第一小学校	松永 渉	株式会社静岡銀行	23
富士宮市立上野小学校	佐野 健人	公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム	26

◆企業担当者様御感想 29

◆民間企業等長期派遣型研修実施要綱 33

# ELFIE GREEN 株式会社

研修期間:令和5年4月1日~令和6年3月31日

所属/氏名:静岡県立田方農業高等学校 教諭 大場 智之

## 研修の内容

### 1 生産管理や品質管理に関する研修

栽培室内作業（ウレタン浸水、播種、仮定植、定植、収穫、トリミングなど）、生産管理表、日常点検、培養液・管理、湿温度等の環境管理、栽培パネル等の洗浄、栽培室内の清掃など

### 2 課題解決に向けての研修

株重向上に対する環境調査および試験、新品種の栽培比較試験、チップバーン対策、トリミング基準の変更、収穫手順の見直しと改善、QCサークル活動によるグループミーティング実施、AOI機構との連携、株式会社ベジ・ファクトリー工場見学など

### 3 地域貢献・地域創生に関する研修

インターンシップの受け入れ（近藤鋼材、静岡県立田方農業高等学校、加藤学園暁秀初等学校、三島市、三島市立南中学校、公益財団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムなど）、三島市および沼津市学校給食への提案、授業提供（沼津市立金岡小学校2年、三島市立坂小学校5年、三島市立北中学校1年）、全日本中学校技術・家庭科研究会全国大会（栽培・生物育成分野）協力、沼津未来博出展など

## 研修を終えて

### 1 はじめに

静岡県にて正規採用されてから11年が経過し、学校内での責任ある役割を担うようになった。しかし、学校という独特の環境での指導には一定の限界があると感じていた。そんな折、この研修プログラムへの参加機会をいただいた。私にとって民間企業での勤務経験はなく、この研修が非常に意義深いものとなるように次のような研修目標を設定した。まず民間企業特有の礼儀や対応を学び、社会に出る生徒たちに求められる資質を理解し、将来の進路指導に反映させる。また、植物工場や農産物の生産管理プロセスを習得し、新しい農業教育の指導法や評価法を模索する。これらを踏まえ、1年間の研修に取り組んだ。

### 2 研修先の概要

ELFIE GREEN株式会社は2011年に「地域の子どもたちに安心安全な食べ物を」という思いからスタートした。2019年にはJGAP認証を取得し、沼津市に本社を置く、近藤鋼材のグループ企業となった。2023年にはGGAP認証も人工光植物工場でも唯一取得した。富士山の湧水を使用した地物野菜として1日に約1万株のレタスを収穫している。天候に左右されない職場環境は働く方にも安全で快適な労働環境を提供し、地域に多くの雇用を生み出している。近年の気候変動により、露地野菜の価格高騰や品薄の問題が発生しているが、天候に左右されず安定的な生産が可能な工場野菜は注目されており、静岡県内だけでなく様々な小売店や飲食店などの

場所で利用されている。水耕栽培に使用する原水には日本三大湧水のひとつである柿田川湧水を用いている。県内で流通する植物工場野菜と比較しても味はトップクラスであり「柿田川野菜」のブランドは多くの消費者から求められている。また、地域創生にも力を入れており、静岡県東部地域の児童養護施設や子ども食堂に対してレタスの無償配布を行っている。行政との関わりも多く、本社工場がある三島市とコラボレーションし、サニーレタス「みしま味彩」を商品化して販売している。食育に関しても三島市や沼津市の学校給食で活用して頂いている。このようにレタスを通して貧困問題や雇用問題、農業自給率など現代の社会問題に取り組みながら、先端技術を活用し日々成長し続ける企業である。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) 完全閉鎖型人工光植物工場について

外的な環境影響をほぼ受けない条件で作物の栽培を行うことに興味・関心を抱くとともに言い訳が許されないというプレッシャーを感じた。農業実習を担当して気候の変動や病害虫の発生による影響で作物が思い通りに生育せず、収穫期がずれることや収量が落ちることを何度も経験した。しかし、植物工場では自分の管理方法が収量に直結するため、規定数量に満たない理由は自分自身の至らなさに帰着する。農業実習において指導や評価をする際にとても良い教材であると考えた。このような条件を学校現場で用意することは予算や施設の問題で難しいが簡易な方法で生徒の学習に活かす可能性はある。また、1年間通して植物工場での栽培管理を学ばせていただいた経験を活かして指導を行いたいと考える。



栽培ラックの様子。見渡す限りレタスです。

#### (2) 着眼点の違いについて

農業として、工業的な視点、教育という観点という考え方の違いを学んだ。普段の授業での指導において、私自身の栽培や生産を行うコストについての意識が足りないと感じた。もちろん、生産物は生き物であり個体差や生育差が発生することは想定される。授業や実習において播種や定植をさせるが終着点（収穫や出荷）を想定した指導ができていない現実がある。納品数に合わせた生産管理や栽培状況を加味した調整をすることで生徒の意識づけができると感じた。これらは栽培計画の作成と検討をすることで学習の質の向上につながる。また、栽培計画の曖昧さゆえに農業では一般的に出荷や販売数を維持するために余剰生産分が存在している。病害虫や天候のリスクに対応する経営的な視点を持たなければならない。スマート農業やICT活用の流れの中、根本的な考え方の転換が求められる。

農業生産における観点からだけでなく、学校教育においても行事や計画を事前に検討し、情報を共有することも重要である。自己の業務に追われ全体を把握できないことは業務の重複や欠落につながる事象であり、注意が必要であると感じた。

#### (3) 勤務について

今回の研修の中で従業員の健康管理について学んだ。もちろん自社の従業員の健康管理は管理者として必須の要件である。体調不良者がでることは企業としてのパフォーマンスの低

下を招き、従業員の健康という財産をも損なうことになる。このことは多くの管理者が考え、各企業で配慮や工夫を行っている点である。加えて、遅刻や欠勤等までいかない心身の不調、具体的には寝不足や考え事などで業務に集中できない状態で仕事をしていることにより発生するミスやトラブルのことについても意識が必要である。業務過多や過大なストレス、休養を取ることのできない環境により近年増加しており、これについては私自身も考えが至っておらず、気づかされるが多かった。学校現場においても教職員の勤務時間の問題が取り上げられ対策が考えられているが、生徒たちに対しても「学習の質」を確保するために集中して学習に取り組める環境作りが必要であると私は感じた。時間内に業務を収めることは個人の「仕事の質」だけでなく、企業や学校の質を高めることにつながる。課題や様々な活動に追われる日常ではなく、学習や部活動から離れた環境での「無駄な時間」を確保して心身の健康を整えることや業務と関係の少ない活動や取り組みも新たな発見や発想を生む。これらの活動が今後の学校教育や社会に求められている。

また、ICTや情報化が進む中、「スピード感」と「自己表現力」の必要性を感じた。デジタルとアナログ双方の明暗はあるが次世代の社会人としてこの2点が重要となる。学校現場においてもICT活用と紙媒体の双方があるがともに求められることは生徒や保護者、地域社会への表現の方法と速度である。教育機関としてそのような人材の育成をしなければならない。

#### (4) 地域連携・企業連携について

研修期間中、様々なイベントに参加させていただいた。近藤鋼材が地域の方々に支えられている存在であることを感じた。量販店や企業だけでなくエンドユーザーにとっても工場野菜が求められており、興味関心の高いものであることを知った。特に女性からは働きやすさや清潔なイメージなどから就業を希望する意見もいただいた。これらのことから農業の未来の形として植物工場は大きな役割を担うと考えられる。農業教育だけでなく幅広い教育の場で農業の学習機会を創出できる手法であると感じた。農業を教える立場として新たな学習や進路指導の視点を得ることができた。

モノが溢れている現代において、似た性質をもつ商品が様々な場所や方法で手に入れることができる。消費者はその中から価格や性能、デザインなどを評価して自分の理想と合致するものを購入する。その際に何かを削ったことを示すよりも何かが付与されていることをアピールすることが重要である。他と比較し安い、高いではなく、その商品のもつ背景や目的などを示したうえで価格と合うのかを判断する消費者が若者を中心に増えていると知った。教育も同様であり、生徒に対して授業という場所で教科書や動画、教材などのコンテンツ以上の「何か」をどれだけ付与できるかが今後の教員に求められていると感じた。



沼津未来博にて地域の方々に水耕栽培の利点を説明。

小中学生に対して授業をさせていただいたが中学生の発想や水耕栽培に対する強い意欲を近くで感じた。中学校技術科では土耕で行う植物の栽培では養分吸収や根の伸長、光の強弱や温度条件が見えない部分が多く、栽培の反省や対応が曖昧になりがちである問題があった。しかし、水耕栽培では生徒の管理がそのまま生育にあらわれるため、生徒間での評価や

考察がより深く専門的なものになっていた。生徒からの質問例としては「葉を大きくするには」「レタスをより緑色にしたい」「パリパリ食感にするには」など商品の品質に関わるレベルのものがあつた。また、栽培時の環境要因による生育の変化が大きいことで生徒たちの興味が引き立てられていた。植物工場や養液栽培をテーマに生物育成の分野の展開によっては高校農業への興味関心も広がるのではと手ごたえを得た。小学校低学年の授業では植物栽培について



新たな農業の形を児童、生徒に説明。

の理解が難しいため説明の内容も簡略化し短時間にするように努め、食べ物の大切さや生産者の苦勞を中心に述べるようにした。授業後の給食であったため、給食の献立や食材に対する関心も普段に増して生まれていた。日頃食べているものの背景やルーツを知ることによって「食べる」という行為に学びの機会が生まれ、有益な時間になることを体感した。農業というひとつの 카테고리を通じて連携・協力できた。

私が全体を通して学んだことは小学校での生活科や食育活動、理科、社会、中学校の技術家庭などのベースがあり、高校農業での学習もその後の高等教育機関や社会人として働く基礎になっているということだ。すべてはつながっており、高校において農業を教えるためには義務教育での醸成が重要であり、対してその学習の目標となる学習環境の提供を高校側はしなくてはならないと感じた。

最後に本研修を受け入れて頂いた近藤鋼材の社是は「敏にして誠実に努めよう」である。商売たるものは敏達であれば計画、行動、チェックの三位一体が十分に生かされるものである。また、誠実でなければならない。誠なくして顧客に愛され信頼される取引が望めない。という考え方である。この社是を私は聞き、教育もこの通りであると感じた。生徒や保護者、地域の方々に対して、そばに寄り添い誠実に対応することを忘れてはいけない。業務や行事などに追われ、後回しにしがちな対応や形式的で変化を許さない対応は果たして相手にとって誠実であるのか。そのことを自分自身問われたと思う。何事にも全力で立ち向かう姿勢で誠実に努力しなければ信頼関係は築けないのだ。近藤鋼材での研修において終始、時代の先駆者であり続ける気概を感じた。学校現場においてもこの考え方を忘れずスピード感を持って積極的に取り組みたい。

## 4 おわりに

民間企業の立場から教育や学校を見てみると期待や求められていることの多さを感じました。この研修を通して、生徒や社会に対して学校が還元しなければならないと気づかされました。さらに努力と自己研鑽を積み、学校に戻ってから地域社会に貢献できる人材育成に尽力したいと思います。

最後に、大変お忙しい中、研修を受け入れてくださった近藤鋼材株式会社やELFIE GREEN株式会社の皆様、また、このような研修の機会をくださった静岡県教育委員会の皆様には深く感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。研修期間中には関係機関や諸企業の方々には大変お世話になりました。ここに記して謝辞に代えさせていただきます。

# 浜松光電株式会社

研修期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

所属/氏名：静岡県立遠江総合高等学校 教諭 杉原 譲治

## 研修の内容

- 1 新入社員教育、配属先研修（4月）**  
社会人の心構え、会社および製品紹介、半田付け資格認定講習・認定試験など
- 2 製造部門研修（5月～9月）**  
磁気・圧力・光センサおよびモジュールの組立・検査などの作業および講義
- 3 間接部門研修（10月）**  
管理部、営業部、製造管理部、企画部に関する業務および講義
- 4 品質保証部での研修（11月～12月）**  
信頼性試験、クレーム処理、工程確認、静電気教育などの作業および講義
- 5 設計Gでの研修（1月～3月）**  
組立・特性検査などの作業、教育資料作成および電気電子に関する教育の実施

## 研修を終えて

### 1 はじめに

本県に採用され、工業教育に携わって13年の月日が経っていた。大学卒業後に2年間の民間企業での勤務経験があったが、15年以上も前のことであり、記憶も薄れていた。また、毎年の進路指導に携わっていく中で、自分自身の民間企業についての知識が乏しいことを痛感していた。そんなときに今回の研修の機会を得た。研修を通して、製造現場の状況や企業の働き方などについて学び、今後の教科指導や進路指導、分掌等の運営に活かしたいと思い、本研修に臨んだ。

### 2 研修先の概要

浜松光電株式会社は、1967年に浜松ホトニクス株式会社の光素子の量産工場として設立され、創立56年の国内シェアトップの製品を持つセンサメーカーである。磁気センサ、圧力センサおよび各種センシングユニットの開発・設計・製造・販売を手掛け、現代生活の様々な分野で利用されている。浜松ホトニクス株式会社の関連会社で、光センサの受託生産も行っている。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) 人材育成（社員教育）

大卒者と一緒に半年間の製造現場研修を受け、業務内容を含めた会社全体の理解を深めることができた。この研修を行うことで、社内の人間関係の構築、知識や技術の習得、教育担当者の育成およびスキルアップ、教育資料の共有化など、双方にとって多くのメリットが得られた。多くの研修が、講義→個人またはグループでの検討→（資料作成）発表という流れで、受け身ではなく主体的に取り組めるように工夫されていた。課題やまとめの発表があることで、資料作成やプレゼンのスキルも必要となり、自ら学ぶ姿勢など常に学び続けることの重要性を再確認することができた。

各部署では、仕事やポジションを与え、成長を促すことで若手社員の育成が確実に行われていた。最初は一緒に作業し、徐々に単独で行えるように仕事を任せ、この過程で先輩社員から知識や技術のノウハウの継承がなされており、組織としてのレベルアップも図られていた。データ整理や資料まとめ、会議や出張等への参加を早い段階から経験させることで、実践重視での人材育成が行われており、若手社員の知識や技術が深まっていると感じた。また、教育（研修）履歴も管理されており、計画的に適切な時期に適切な内容の教育が実施できるシステムであると感じた。教科指導や分掌業務等の実践的な経験を積む中で、若手教員の育成を実践したい。

現場研修では、作業の目的や意味を理解した上で行えるように、作業手順書を用いながら相手に合わせた指導が行われていた。作業手順書は、誰が見ても同じ品質で作業が行えるように写真を多用して作成されており、大変わかりやすかった。作業のポイント（注意点含む）についても、作業手順書の該当箇所を示しながら、実際に見本を見せたり、適宜作業の様子を観察したり、アドバイス等をするなど、手厚い指導が行われていた。アフターフォローも含めたきめ細かな指導が、若手社員の育成にもつながっていると感じた。

研修を通して、「自ら考え、行動し、結果を出せる人材」を育成していく必要性を感じた。生徒育成においては、主体的に学習に取り組む態度や論理的思考、課題解決力、創造性、粘り強さ、責任感などを身に付けさせるような指導を積極的に行わなければならないとあらためて感じた。



電気・電子に関する教育の様子（講義）

#### (2) 改善の意識

作業ミスややりにくさ、危険を感じた時が改善のチャンスであり、作業効率や生産性の向上、5Sや安全の確保につながることや利益にも影響があることを学んだ。実際の改善では、「使用ピンセットの変更」という作業効率を向上させるものから「使用キャピラリの変更」という月あたり20万円以上の効果金額があるものまで幅広い提案があった。着眼点を参考にしながら、学校でも改善できるところを変えていき、職場環境や教育環境の整備を行いたい。授業に関しても、電気電子に関する教育で浮き彫りになった課題を解決し、授業改善を行いたい。

また、問題発生時の迅速な対応や対策には目を見張るものがあった。同じようなミスが発生した場合には、小グループでの対策が検討され、速やかに対応されていた。ミスや仕損な

どの失敗は決して許されることではないが、これを無駄にすることなく改善につなげることの重要性についても学ぶことができた。改善は意識しないと見つけたり、気付いたりすることができず、人間的成長にもつながらないことを痛感した。そして、改善を行なうためには業務内容や製品に関する知識は必須であるので、業務内容によって得意・不得意はあるが、いろいろなことに挑戦して、経験値を上げていくことも重要であると感じた。今後は、あらゆることに挑戦することで自身のスキルを高め、人間的成長にもつなげたい。

### (3) 時間を意識したメリハリをつけた働き方

生産性の高い働き方をしている人は、動きに無駄がなく、時間を有効活用して効率よく業務を遂行していることがわかった。すべての業務に納期や期限があり、一人で仕事が完結することはほぼないので、時間を意識して計画的に業務を遂行していく重要性を学んだ。研修前にはコスト意識がなく、放課後や休日を当てにして勤務時間内に終えようという意識が低かったが、研修を通して、できるだけ時間内に終わるように努力しなければならないと痛感した。今後は、空き時間の有効活用と教材や資料、書類等の作成コストを意識し、効率よく業務を遂行したい。

また、休憩も仕事の内であり、しっかりと休むことも重要であることを学んだ。最初は、チャイムと同時に作業を止めることや仮眠を取るなど違和感があったが、研修を進めていくうちに、集中して効率よく業務を遂行するには休憩が必要であることが理解できた。オンとオフの切り替えをしっかりとし、メリハリをつけた働き方を実践したい。

現場研修で早く正確な作業を行なうためには、いろいろな経験を積むことや目や手を鍛えることが必要であることを学んだ。実際に作業を経験すると、頭ではわかっているがうまくいかないことが多かったのも、やはり指先の感覚などを含めた経験の差が作業効率および品質の向上に大きく影響していると感じた。作業等でうまくいかなかった時の気持ちを決して忘れず、できない生徒の立場に立った、寄り添った指導を行いたい。

## 4 おわりに

本研修を通して、民間企業の働き方や人材育成（社員教育）、コストや改善の意識、製造現場の最先端の技術などについて学ぶことができ、大変貴重な経験となった。また、若手社員を対象とした電気電子に関する教育を実施する機会があり、改めて教育の奥深さとやりがいを感じることもできた。今回の研修で得たことを学校や生徒に還元していきたい。

最後に、このような長期に渡る研修を快く引き受け、手厚い指導をしていただいた浜松光電株式会社の方々と、このような機会を与えてくださった静岡県教育委員会の皆様に心から御礼申し上げます。



電気・電子に関する教育の様子（演習）

# 株式会社リクルート

研修期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日

所属/氏名:静岡県立島田商業高等学校 教諭 牧野 雄貴

## 研修の内容

- 1 **キャリアガイダンス編集業務**  
企画、取材、入稿等、誌面づくりに関する一連の業務
- 2 **キャリアガイダンスWEBサイト運用業務**  
連載記事、本誌特集ページ、キャリアガイダンス本誌（刊行物ページ）等の運用管理
- 3 **高校生Ring関連業務**  
高校生RingWEEK、高校Ring先生向け説明会、高校生RingAWARD、学校説明会視察等
- 4 **イベント運営業務**  
北海道東川町LIPフェス、スタディサプリーイベント「卒おめ式」等

## 研修を終えて

### 1 はじめに

「商業」を担当する私にとって民間企業研修は、学校現場を飛び出し、企業の取り組みや社会の変化を身をもって経験できるこの上ない機会であった。研修の目的にもあるように、民間企業の最新技術やシステム、組織運営等を学び、自分自身のスキルアップはもちろんのこと、見て聞いて経験して感じたことを授業を通して生徒に還元し、仕事を通して同僚に還元することで、学校教育、商業教育の発展に寄与したいと考え研修に臨んだ。

### 2 研修先の概要

リクルートの原点は1960年に創業した「大学新聞専門の広告代理店」。人材サービスにはじまり、時代とともにさまざまな分野へと広がっている。世の中に溢れる「情報」を、よりよいカタチで必要とする人々のもとへ届け、社会の「不」（不満・不便・不安）を解消し、誰もが自分らしい人生やライフスタイルを選び、歩んで行ける世の中になっていくことを目指している。個人と企業という2つの顧客に「まだ、ここにはない、出会い。」を提供する。

今回の研修で配属された部署はキャリアガイダンス編集部。発行開始から50年を超えリクルートの中で最も歴史がある紙媒体『キャリアガイダンス』シリーズを企画、編集する部署である。誌面は主に進路担当教員・校長・副校長・教頭等を対象に進路指導やキャリア教育に役立つ情報を届けながら、クラス担任や保護者に向けても進路等に関する情報を発信している。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) キャリアガイダンス編集部での気付きと学び

普段何気なく手にする雑誌や書籍、モノづくりの裏側には、多くの人に関わり、様々な仕事や工程があり、そこには一生懸命に、社会をよりよくしたい、良いものを届けたいという熱量を持った働く皆さんがいること、1つのものを作る喜びやその裏側にある苦勞、細かな配慮などがあることに改めて気付かされた。また、学校現場と近い業務だったからこそ、学校の課題を今まで以上に自分事と捉えることができた。たとえば、取材で先生方や生徒の皆さんへの取材等を通して、各学校の取り組みや生徒と教員間の関係性などをお伺いしていると、素晴らしいなど感心する一方で、自分ではどうやって生徒と向き合えるか、どうやって授業を展開していこうかと考えを巡らせることが多くなっていった。研修当初の取材では、感心したり憧れたりする気持ちばかりであったが、後半になるにつれ、学校の当事者としての自分の在り方、仕事への向き合い方などを考える時間が多くなり、自分はどうしたいのか、何をすべきなのか、過去の自分自身とも対話しながら内面と向き合う時間も作ることができた。学校を離れたからこそ、俯瞰して学校のこと、自分のことを冷静に見られたことも大きかったと感じている。

#### (2) 最新の労働環境と労務管理

研修の目的の1つに「企業の最新技術やシステムを学ぶ」とあるが、まさに初めての経験ばかりであった。初日にスマートフォンとパソコンが渡され、インターネット環境さえあればどこでも仕事ができ、リモートワークは当たり前環境に衝撃を受けた。また、会議のほとんどがオンライン上で実施され、参加できなかった場合は、録画されたものを視聴することが当たり前に行われていた。会議等の資料もすべてPDFやパワーポイントなどデータでのやり取りとなっており、基本的に紙資料はない。オンライン会議やペーパーレス化など、学校でも実現できるようなことは、積極的に実施すれば効率的になると感じた。

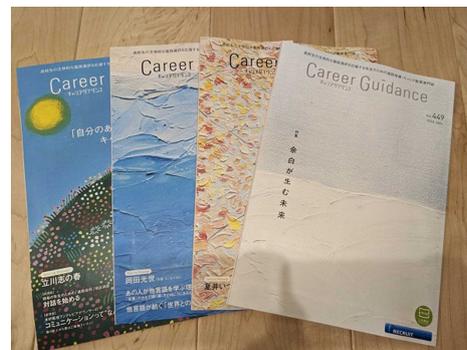
労務管理も徹底していた。リクルートでは、1年のなかで1か月でも残業時間が80時間を超えることは許されない。もしそれが発生した場合は、なぜそこまでの業務量となってしまったのか等の調査がなされ、管理職の責任問題にも発展するという。また、60時間を超えることも半期に1回までと厳密にルール化されるなど、労務管理が徹底している。以前は、深夜労働も当たり前だったそうだが、昨今の働き方改革で、限られた時間のなかで労働生産性をあげ、従業員の心と身体の健康も大切にしようとする会社の強い意志が感じられた。翻って学校現場ではどうだろうか。静岡県でも勤務時間に関するガイドラインは示されているものの、ここまで徹底した労務管理を目の当たりにすると、いかに学校現場が社会とかけ離れた環境が続いているのかは自明である。教員不足が加速するなか、優秀な教員を確保するには、企業相当、もしくはそれ以上の改革が急務で、本気で取り組まなければ学校現場の人材不足はさらに加速し、公教育の維持は不可能ではないかと強い危機感を覚えるほどだった。



フリーアドレスの座席からの景色

### (3) 圧倒的当事者意識

この1年、さまざまな経験を重ねたなかで、自分の心に刻まれたのが“圧倒的当事者意識”。これは、リクルートを代表する言葉で、意思を伝えること、周囲を巻き込むことが大切とされている。関わる事象すべてに他人事ではなく、自分事として捉えて、業務や成果に責任を持つ姿勢をさしている。大企業となると、それぞれのグループや部署が独立していて、なかなか交わらないものだと思っていたが、ここでは、ときには部署の枠を越えて協力しながら、全員で良いものを作っていこうとする様子を間近でみるのができた。本当にみなさんがすべての仕事に当事者意識をもって取り組む姿などに触れるうちに、自分のなかにもだんだんと“圧倒的当事者意識”の精神が宿っていったように感じる。私の場合は、キャリアガイダンスでの取材等を通して、様々な学校に伺い、先生方、生徒の皆さんにお会いするなかで、自分だったらどうするだろうか？自分が学校現場に戻ったらどうしたいだろうか？と、自分事に捉え、考えながら、先を見つめるようになっていった。この1年間、“圧倒的当事者意識”が自分の中に形作られていったことが、この会社での学びの1つだったと感じている。



研修期間中に携った刊行物

## 4 おわりに

この1年間、私を温かく受け入れてくださり、素晴らしい経験と学び、気付きを与えてくださったキャリアガイダンス編集部の皆さんに、他の業務で一緒にお仕事をさせていただいた皆さんに、心から感謝申し上げます。ここでの1年がなければ、新しい考え方を持つこともなく、これから先こうありたいと願う自分もいなかったと思います。ここでの経験を必ず、生徒たち、先生方にお伝えしながら、よりよい授業や生徒指導、学校づくりに寄与したいと思います。本当にありがとうございました。

# 株式会社静岡銀行

研修期間:令和5年4月1日～令和5年9月30日

所属/氏名:静岡県立静岡北特別支援学校 教諭 岡島 祐美

## 研修の内容

- 1 しずおかキッズアカデミー事業  
企画提案、協議、後援名義申請、チラシ作成、募集、イベント運営、各種開催報告
- 2 各種商談会  
KADODE OOIGAWA、ものづくり商談会、TECH BEAT Shizuoka
- 3 地域のための人材育成  
シヅクリプロジェクト、アオハルし放題、(しずおかキッズアカデミー)

## 研修を終えて

### 1 はじめに

私は、昨年度初めて、担任する生徒たちを企業へ送り出す経験をした。その際の職場実習において、ある社長と、「教員は社会経験がないから、常識がない人もいる」という話題になった。その後、自分の常識が企業で通用するのか考えるようになった。また特別支援学校高等部では、「働く人」を育てることに重きを置いているが、生徒像として描いているものが、「社会が求めている人材」と一致しているのかを知り、今後の進路指導につながるものを得たいと考えた。

### 2 研修先の概要

今年創立80周年目を迎えた「静岡銀行」は、静岡市葵区に本店を置く地方銀行であり、地域とともに夢と豊かさを広げます」の基本理念のもと、地域社会の豊かな未来の創造に向け、グループが一体となり、「地域のお客さまの夢の実現に寄り添う課題解決型企業グループへの変革」に取り組んでいる。2022年10月には「フィナンシャルグループ」を設立し、持株会社体制へ移行した。

研修先部署の「地方創生部」は、地方公共団体がまとめる「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対し、地域金融機関としての関与を深め、支援体制をさらに整備するとともに、地域活性化に結び付く産業の育成・発展に寄与する取り組みを強化することを目的に2015年6月に設立された。①関係人口を増やす、②地域の魅力を磨く、③地域産業をつくる、という3つの柱で地域を巻き込み、地域を活性化させる取組を行っている。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) 地域のための人材育成

地方の人口減少の地域課題に対し、銀行では様々な取組をしている。取組の一つである「しずおかキッズアカデミー」では、小学生を対象に地元の魅力を伝え、郷土愛を育むことを目的とし、地域資源を題材に、賛同していただけた地域企業と共同主催でイベントを開催している。そして、郷土愛を育むことで、将来的なUターン就職・定住人口の増加に結び付けてほしいという願いが込められている。

私は主に本事業を担当し、半年かけて企画、協議、関係機関との連絡調整、運営を担当した。地域資源に、「大井川のお茶請け食(100年フード)」と「お茶」を取り上げ、島田市にあるKADODE OOIGAWA(株)、JAおおいがわと共催してイベントを開催した。開催当日の子供たちの話を聞く態度や、体験の取り組みから、本イベントへの興味、意欲を感じた。また、イベントの満足度は大変高く、共催した施設や、地元資源の魅力を伝えることができたと感じるアンケート結果だった。しかし、事業本来の目的に対する効果は、今は分からない。将来イベントにかかわった子供たちが静岡を好きになり、静岡に住み、就職し、静岡県地域経済を担っていく姿を見られるのは、10年、20年先になるかと思う。このように、銀行は中長期的な活動を通し、地域の活性化のために取り組み、地域を支えていることを本事業で学んだ。



しずおかキッズアカデミー@KADODE OOIGAWA開催の様子

・参加者/小学生 4~6年生 17名とその家族 15名

・内容/①100年フードを学んで作ろう!

②大井川のお茶を学ぼう!

③ティーペアリングに挑戦しよう!

大井川地域のお茶文化と、100年フードに登録されている「大井川のお茶請け食文化」をテーマに、調理体験やお茶淹れなどの体験を通じて、子どもたちに地域の魅力を体験してもらいました。

#### (2) 豊富な人材

地方創生部には、行政の職員も働いており、行員は部の半数ほどである。静岡銀行は、多くの地域企業や行政と取引をしている。市のまちづくりにも銀行がかかわり、企業と市をつなげている。そこに、行政職員のスキルが生かされている。また、将来の静岡県を担う人材育成には、子供たちとかかわることも多いため、教員のスキルも生かされる。このように、地方創生部は多様な人材を出向や研修で受け入れ、各々のスキルを高め、地域に還元している。

学校では、教育実習や職場体験の学生を受け入れることはあるが、企業の出向者を受け入れることはない。教員免許が必要であることも理由であるだろうが、学校卒業後、社会に出ていく子供を、地域でも育てていくべきである。そのためには、学校側から地域と積極的につながっていくことが必要であると考えます。私は、研修を通して企業や財団、他校の方々と仕事をし、人とつながり、新しい情報を知ったり、経験したりすることで、物事の考え方や見方が変わり、視野を広げることができた。学校でも、出前講座や作業学習などで地域の人材を活用し、生徒の学びを深めているが、さらに活発に、今後も生徒の学びを深められるよう、地域資源や人材を活用し、地域全体で子供たちを育てていく社会を目指し、積極的に活動していきたい。

### (3) 社会で求められる人材

『あたりまえのことがあたりまえにできるように』これは、私が「あいさつ」や、「ルールを守ること」、「相手を思いやること」などを、生徒があたりまえにできるようになって欲しいと願い、日頃から指導していることである。社会で求められる人材として、生徒に身に付けさせたいことを、本研修において再確認することができた。

#### ア. 「あいさつ」

静岡銀行には、特例子会社「しずぎんハートフル(株)」がある。本校卒業生も就職しており、「おはようございます」と古紙回収に毎日来てくれた。聞いていてとても気持ちがよく、感謝の気持ちが自然と湧いてきた。また、しずぎんハートフルの存在を毎日感じる事ができた。そして、「あいさつ」が人と人をつなぎ、その人の存在も感じる、人と関わる上で必要なコミュニケーションだと改めて感じた。

#### イ. 「ルールを守り、相手の立場になって考える」

仕事はチームで行っている。資料を確認する人が、見て分かるものか、相手が必要としている情報を伝えることができているかなど、相手の立場になって考えることで、仕事の効率も上がる。静岡銀行はお客さま方の信頼で成り立っている。そして、コンプライアンス研修も行って意識付けをして徹底することで、より信頼を得ている。ルールを守るとは、仲間やお客さまも大切にすることだと思う。一方で、特別支援学校の生徒は、相手の立場になって物事を考えて動いたりすることが苦手な生徒もいる。就職できたとしても、職場で人間関係が悪化して退職することもある。就職先の理解を促すだけでなく、人との関わり方を、学校だけでなく社会でも学び、経験を積むことが必要である。そして、ルールを守ることの意義を生徒と考えたり、具体的な場面を提示したりし、生徒同士で対話することで、相手の考えを自分と比べながら自己理解を促し、人との関わり方を生徒と考えていきたい。

#### ウ. 「分からないことは聞く、自分から仕事を探す」

研修が始まった頃は、何が分からないのかが分からなかった。生徒にも同じことがあり、分かっていないことが分かっていない。しかし、その後の行動が働く上で大切である。学校では、分からなければ聞くことを生徒に指導しているが、ずっとこの状態の生徒もいる。その状態から脱出し、次のステップに行かなくてはならない。私が脱出できたのは、マニュアルがあったお陰であった。事業マニュアルを見ることで見通しが持て、業務内容を知ることができた。それを知った上で聞くことにより、事業を比較的スムーズに進めることもできた。生徒が仕事をするときにも手順表は有効だが、業務内容が分かるとマニュアルは必要なくなる。しかし、分からなくなったときに自分からマニュアルを出して確認する姿こそが理想であり、そんな姿を目指して指導していきたい。

## 4 おわりに

将来を担う子供たちを教育する身の私が、知らないことが多く自信を失くすことも多かった。しかし、研修者の事前説明会でうかがった、「今までのスキルが通用しないことも学びである」という言葉に支えられた。人とつながり、新しいことを知ることがとても新鮮で、学ぶ楽しさを再確認できた。今後、研修を通して培った経験や人とのつながりを、生徒の学びにつなげていきたい。

最後に、静岡銀行地方創生部の皆様をはじめ、研修を支えていただいた皆様に、心から御礼申し上げます。

## 研修の内容

- 1 観光案内所  
お客様対応、情報ボードの作成、館内放送 等
- 2 授乳室  
授乳室の装飾、案内、備品購入、授乳室アンケートの作成 等
- 3 イベント業務  
TSUNAGUトートの企画、販売、原画展示 等

## 研修を終えて

### 1 はじめに

私は、社会人になってから教育現場でしか勤務経験がなく、高等部で勤務する中で子供たちを社会に送り出す経験を重ねる度に、子供たちの働く社会への関心が大きくなってきた。社会に出ていく子供たちの気持ちや実習等を受け入れる企業側の思いを知りたく、民間希望研修を希望した。希望し続けていた民間企業研修がついに実現し、大きな希望と期待を持って、今回の研修に挑戦した。

### 2 研修先の概要

加和太建設株式会社は「世界が目にする元気なまちをつくる」という目標実現のために土木、建設業によるモノづくりを大切にしながら、地域を元気にする「まちづくり」を担うことに注力している。研修先である施設運営事業部は、建物をつくるだけでなく、自ら率先して運営することで、まちに賑わいを生み出したいという思いから2014年に発足した部署であり、現在は6つの事業所がある。勤務先である道の駅伊豆ゲートウェイ函南は、2017年に開業し、伊豆の玄関口として函南町や周辺企業と連携しながら、利用されるお客様の心にふれるホスピタリティを大切にしながら運営をしている。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) 情報発信

観光案内所業務である情報ボードで、旬の伊豆の話題を提供し、伊豆半島のおすすめを紹介した。繁忙期前の心構えとして『私たちにとっては日常でも、お客様にとっては非日常である。』という駅長の言葉が印象的だった。お客様の大半が県外からの観光客であることから、非日常である伊豆旅行を彩ることができるよう、的確で丁寧な観光案内やお客様のニーズの応じた情報提供ができるように意識した。笑顔で出発されていく姿や温かい言葉を掛け

ていただいた経験は私の喜びにも繋がった。学校は、一見毎日が繰り返しに見えるが、繰り返すこと、積み重ねることが螺旋のようになり成長につながっている。日常を非日常のように彩るのは、それぞれの意識と取り組みで大きく変わっていくように思えたよい経験だった。

## (2) 対応の素早さ、協力体制

特別支援学校で勤務している経験から、肢体不自由の方が旅行に行く際の不便な現状、旅行を断念せざるを得ない現実等を伝えさせていただいたところ、スピード感を持って助成金を調べていただいたり、理解して協力してもらったりすることができた。また、自身の子育て経験を生かし、授乳室の環境整備、備品購入等に取り組みさせていただいた。繁忙期に備品が整い、稼働率を上げることができるように進めることができた。ただ漠然と環境を整備するだけでなく、数字を意識し稼働率を上げていくことで次への課題が浮き彫りとなり、次の段階へ進む手掛かりとなる点などを学ぶことができた。

また、道の駅は各関係機関、テナントの協力で成り立っている。そのことから、自社だけが利益を得ることだけに注力せず、相乗効果が出るように尽力しているところ、協力しあって運営しているところが印象的だった。この経験は、何事にも置き換えることができる経験となった。自分一人で成功するよりも、多くの仲間と喜びを共有したり、分かち合ったりすることは喜びが大きくなることを実感することができた。

## (3) 地域福祉とつながる「TSUNAGU (つなぐ) トート」

道の駅伊豆ゲートウェイ函南で勤務させていただき、道の駅公式キャラクター「マモリくん」を宣伝し、更なる集客に結び付けたいという思いを持った。そこで、アートクラブにマモリくんを描いてもらい、就労継続支援B型事業所に製版、印刷を依頼し、トートバックを制作させていただいた。福祉のつながりで三者の協働により、実現したオリジナルトートバックである。今まで道の駅が繋がってきた福祉事業所を紹介させていただき、賛同していただいて制作に取り組めたことは大きな成果だった。私の企画や思いを尊重してもらい、販売まで導いてもらったことは、日頃から関わる人たちとの良好な関係を築いている企業だからできたことだと感じた。



アートクラブに描いてもらった「マモリくん」の原画展示



TSUNAGU (つなぐ) トート

## 4 おわりに

今回の研修で、実際に教育現場を離れ、学校を外から見る視点を持てたこと、民間企業で働くことの苦労ややりがい垣間見ることができたことは貴重な経験だった。

観光案内では、生まれ育った伊豆の観光案内をすることで伊豆の魅力を再発見したり、伊豆をさらに好きになったりすることができた。地域で生活していく子供たちには、育った地域に誇りと郷土愛を持って生活して行ってほしいと思う。地域の中で職場や事業所以外にも自分らしくいられる居場所を見つけ、周りの方々に愛されて生活していくことができれば、障害の有無に関わらず、豊かな生活を送ることができるのではないかと感じた。

短期間に何かを成し遂げることには、難しさを感じていたが、社風、各社員さんのサポートにより私の希望を叶えていただいたことに感謝の気持ちしかない。短期間でも充実感と達成感を味わうことができたのは、この会社だったからだと思う。今回の貴重な研修を知識や経験として終わらせることなく、実践として学校へと還元していきたい。

研修を受け入れてくださった加和太建設株式会社の皆さま、温かく迎え入れてくださった道の駅スタッフの皆さまに心より感謝しています。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



授乳室の改装後の様子  
(姿見、アンケート箱の設置)



道の駅 伊豆ゲートウェイ函南

# 株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社

研修期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日

所属/氏名:藤枝市立青島中学校 教諭 池谷 和貴

## 研修の内容

### 1 主に携わったイベント事業

- ・静岡県夏の読書感想画コンクール
- ・静岡新聞新刊掲示板
- ・高校生のための文化講演会
- ・SBSカップ国際ユースサッカー大会

### 2 その他携わったイベント事業

- ・エコパキッチンカーフェスティバル ・徳永兄弟コンサート ・松竹大歌舞伎
- ・静岡県企業対抗ゴルフ大会 ・静岡県パラスポーツ運動会 ・エコパひんやり大作戦
- ・しずぎんユーフォニアコンサート ・しずおか市町対抗駅伝 ・サンリオ展
- ・ウクライナバレエコンサート ・日本平ウォーク

## 研修を終えて

### 1 はじめに

教職7年目を終えるタイミングで、民間企業長期派遣型研修のお話をいただいた。初めは転職するような気持ちとなり不安を抱いたが、誰もが経験できるような機会では決してなく、この1年間の研修を受けることで自分自身の確かな成長に繋がるであろうという期待感をもつことができた。研修の趣旨である企業の組織運営及び人材育成、地域発信力や課題解決力に必要なノウハウ等を身をもって学び、自身の成長とその先にある学校現場への還元を目標に本研修へ臨んだ。

### 2 研修先の概要

静岡新聞社・静岡放送は、新聞・テレビ・ラジオの3媒体を有するメディア企業である。「確かな情報を届けることで静岡に生きる人たちを幸せにする。その幸せを静岡だけに留めることなく日本、さらには世界に広げていく」ことをミッションに掲げ、静岡に根ざしたメディア企業として、顧客目線で課題を解決できるユーザーファーストな会社を目指している。日刊新聞の発行（静岡新聞）・デジタルニュース配信（静岡新聞DIGITAL）・ラジオ・テレビの放送（SBSテレビ・SBSラジオ）・インターネット事業（@S、あなたの静岡新聞等）・出版（ぐるぐるマップ静岡等）・イベント企画運営（市長対抗駅伝・SBSカップ国際ユースサッカー等）・カルチャーセンター運営（SBS学苑）等、その企業活動は多岐に渡る。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) コスト意識と求める利益

民間企業が企業活動を継続していくためには、利益を上げることが絶対的要素である。例えば、一つの事業を行うにあたって収入はどれほど見込めるか、告知費や人件費など必要経費はいくらかかるのか、全体の収支は最終的にどのようなになるのか。これらのことは事業の大小に関わらず常に意識されなければならない。

私が研修させていただいた地域ビジネス推進局事業部は、イベントの企画・運営を行う部署である。イベント実施を通して収益費や媒体費、名義料などの利益を上げることが求められている。また、ユーザーの視点に立ちながらニーズやペインを汲み取り、それらを反映させることでイベント実施が地域の課題解決に繋がるように意識されていた。

学校現場では金銭的な利益を追求することはない。その代わりに「児童生徒の成長」を追い求め教育活動を行っている。しかし「生徒の成長」を追求するに当たって、作業時間や効率の管理といった視点が重要視されない傾向にある。充実した学校教育活動を進めるには、コスト（かかった時間や労力を含む）に見合った利益（生徒の成長）であったか検証をするという作業が必要であると感じた。数字に現れにくいものを追求する職業ではあるが、際限なく業務に取り組むのではなく、優先順位をつけたり、効率化を図ったりしながら「作業にかかる時間や労力」と「生徒の成長」のバランスを意識して教育活動にあたっていきたい。

#### (2) 「イベントを実施する」とは

イベントを実施するにあたって、しなければならないことは多種多様である。企画書/予算書の作成、協賛社へのセールス、会場の調整、設営発注、音響・アルバイトスタッフ・照明等の手配、告知物（ポスター/チラシ/テレビCM/ラジオCM）の手配、HPへのイベント情報掲載、設営作業、当日運営、報告書の作成、会計報告、経理作業。社内外を含め各担当者とは打ち合わせを行い、随時連絡を取り合いながら作業を進めなければならない。一つのイベントを実施するためには、膨大で地道な作業を要することになる。あらゆる作業を同時進行で進めなければならない。スケジュール管理能力も求められる。また事業部内では、一人あたり複数のイベントを担当しており、年間の中で上記の作業を複数のイベント分、同時進行で進めている。

イベント当日を見ると、エンタメ性が高く華やかな部署であると感じられるが、そこに至るまでの過程は綿密かつ地道な作業が求められる。その作業量の多さから、ともするとこなすだけで手一杯になってしまうが、事業部員の方々はそれぞれの担当イベントに創意工夫をし、よりユーザーの満足度の高いイベント運営を追求しており、日常的な働く姿から尊敬の念を抱いた。場当たりの準備では決して対応できるものではなく、全体の見通しをもちながら、作業管理を丁寧に行い、急を要する案件についても臨機応変に対応していた。イベント運営という突発的な対応を求められることが多い分野であるからこそ、日常的にゆとりをもって仕事を進めていくことがいかに重要であるかを実感した。



読書感想画コンクール表彰式準備の様子

### (3) 時代の変化に対応していく姿

コロナ禍を経て、さらなる時代の変化の中でイベントの在り方も転換期を迎えている。娯楽も多様化しており、多種多様な分野でイベントが実施されている。また、ユーザーがイベントに求めるものも変化してきており、長年続いてきた企画でもその在り方が再検討されている場面を研修中に幾度か目にした。アンテナを高く張りながら、社会に求められているものは何なのかを積極的に汲み取り、イベント運営に反映しようとしている取り組みが印象的であった。

時代の変化に対応していくことは企業のみならず、学校現場でも求められていることである。社会がどのように変化しているのかを積極的に汲み取り、社会に開かれた学校づくりを進める中で、変化することを恐れない姿勢をもって教育活動にあたっていきたい。

## 4 おわりに

4月当初は名刺を交換することにも緊張し、ビジネスメールを送ることにも戸惑い、問い合わせの電話対応もままならなかった。何が分からないのかも分からず、教員1年目の日々と重なった。しかし、日々研修を受けさせていただく中で、徐々に出来ることも分かることも増えてきた。研修を終えるとき、1年間という研修期間を短く感じ、「今のこの企画を、〇〇のように改善したい」「サポートという形で入っていたイベントも自分が中心となって実施してみたい」といった、前向きな「挑戦したい」という気持ちを自然ともつことができていた。そのような気持ちが抱けたということが、本研修が私にとって非常に充実した時間であったという証明になると考える。

この1年間、静岡新聞社・静岡放送で研修させていただき、新しい知見を得ることができた。本来教員をしていれば知ることがないようなことを広く学ぶ機会となった。また当然のことであるが、働く環境が変われば、求められるスキルや成果も異なる。そういった環境の変化の中で自分らしさをもって働くとはどういうことなのかを見つめ直す機会ともなった。今回の研修で得た物事の見方や考え方を活用しながら、教員としての今後の働き方を模索し、この1年間の研修の成果を学校現場に還元できるよう努めていきたい。

株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社の皆様、この1年間関わりをさせていただいた皆様、本当にありがとうございました。



SBSカップ・エコパひんやり大作戦ポスター

# 株式会社エスパルス

研修期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日

所属/氏名:焼津市立大井川西小学校 教諭 風岡 猛史

## 研修の内容

### 1 ホームタウン事業における研修

- ・エスパルスのホームタウン及びファミリータウンの小中学校でのキャリア教育授業の実施
- ・高校生コラボ企画運営及び事前授業の実施
- ・Jリーグ試合運営補助

### 2 教育事業部における研修

- ・サッカースクール指導補助
- ・シニア運動教室、未就学児運動教室指導補助

### 3 育成部における研修

- ・清水エスパルスユース、Jrユース、Jrユース三島指導補助 プリンスリーグ試合運営補助

### 4 広報部における研修

- ・トップチーム練習時のメディア対応 YouTube配信 選手動画撮影

## 研修を終えて

### 1 はじめに

清水エスパルスの基本理念「わかちあう夢と感動と誇り」。基本理念には3つの項目があるが、どの項目にも「地域」という言葉が入っている。私が研修させていただいたホームタウン事業部では、地域が抱える課題解決に、企業や行政、学校等と取り組むべく、様々な活動を行っている。教職に対する情熱や教育の専門性だけでなく、地域の課題解決を通して、総合的な人間力を高めることを目標に本研修を希望した。

### 2 研修先の概要

日本プロサッカーリーグ所属『清水エスパルス』の運営全般を行っている。静岡市をホームタウンとする清水エスパルスは、日本サッカーリーグに前身を持たず、同市清水区（当時は清水市）に既存した社会人チーム『清水FC』をベースに誕生した。「わかちあう夢と感動と誇り」を基本理念に掲げ、市民が作り育て、地域の発展とスポーツ文化の振興に貢献しサッカーを愛する子供たちに夢を与える、世界レベルのプロサッカーチームを目標に活動している。事業内容は、サッカーその他スポーツ競技の興行およびその仲介、スポーツ選手の育成および指導の施設ならびにその団体の経営、プロサッカー選手のマネジメント業務、スポーツ施設の経営および受託運営ならびに管理等である。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) シャレン！Jリーグ社会連携

今回の研修では、多くの『シャレン！』活動に関わらせていただいた。『シャレン！』とはJリーグ社会連携のことであり、「Jリーグをつかおう！」を合言葉に、地域が抱える共通の課題を3社以上の協働で解決し、地域の笑顔を増やすための活動である。清水エスパルスでは、若年層のファン拡大を長年の課題としている。招待企画やSNS等の取組を行っている中、「総合的な探究の時間」について実践的な学びの場を模索する地域の教員の声があった。そこで、地域創生という目標を教育現場と共有し、未来の創り手となる子供たちのためにエスパルスならではの学習機会として「高校生コラボ企画」の充実を行った。学習を通して生徒が『自分ごと』としてクラブに目を向けていくことで、クラブの活力・ファンづくりに繋がる企画した。2023シーズンには11校延べ約500名が参加。試合ボランティア体験、部活パフォーマンス披露、イベント取材、ウェルカムボード製作をはじめ、数回の授業を重ね生徒のアイデアを商品化するコラボグッズ・弁当企画等の実施、生徒のアイデアを選手が実演しTikTok Cupへのエントリー、クラブの環境事業に参画するなど、学校の要望を聞きながら全社横断で取り組んだ。行政、企業、団体等の協働もあり、事後アンケートでは83%（2023）の参加校に満足いただいた。実践的な学びの実現のみならず、その先にある生徒の学びの深まりについても成果を上げることができた。参加校より、「いつもとは違う形で生徒の思いを伝えることができた」「本校の授業方針と一致していた点良かった」「地域に貢献できる貴重な体験となった」という評価をいただいた。また「本校生徒の多くは静岡に残ります。高校時代に地元チームと共に取り組んだ経験は、地元を愛し、クラブに興味をもち、やがて家族と共にスタジアムに訪れることに繋がると思う」というお話も伺った。これは、本活動により、学校とクラブ間で同じ方向性をもって活動を進められたことによると考えられる。参加した生徒からも、「企画を通してファンになり、友人を誘い初めて観戦した。」「国立競技場にも観戦に行った。」とスタジアムで会ったときに話をしてくれた。本活動を通して、クラブの困りごとやシャレン活動を気軽に地域の学校へ相談できる関係が築けたことも大きな成果の一つである。企業も学校と繋がるきっかけとなり、クラブをハブに地域の輪を広めることができた。

今回、私が行ったシャレン活動は、清水エスパルスを中心に行った活動だが、教育現場でも、児童が知りたい、解決したい社会問題について一緒に考えたり、専門機関と繋いだりする活動ができると感じた。コミュニティスクールが実施され、学校だけでなく、保護者や地域の方々の力を借りて、学校運営や課題解決を行っている。専門家ではないからこそできることが多くあることを『シャレン！』活動を通して学ぶことができた。活動の短期成果を見るだけでなく、中長期成果を意識して教育活動を行っていききたい。



10/28（土）ロアッソ熊本戦「高校コラボDAY」の様子

## (2) 民間企業の働き方改革

株式会社エスパルスでは、日々の業務のデジタル化が進められている。「Teams」というアプリを用いて社員のスケジュールや会議を管理し、互いのスケジュールをリアルタイムに共有することができている。会議の場においても資料を印刷するのではなく、クラウド上の資料を共有し、会議内で決まったことはリアルタイムで更新されていく。その会議も全員がその場に集まるのではなく、オンラインの方も交えながら行われている。社内はフリーアドレスとなっており、判断に迷うことがあれば、自分一人で迷うのではなく、すぐに上司や、部署を越えた関係者に確認し、方向性を決定していく。スピード感をもってプロジェクトが進むため、メンバーのモチベーションも高い。私たちは職員会議に向けて日々多くの資料作成を行っている。確かに会議に必要な資料はあり、用意されていなければならないが、株式会社エスパルスでは、「会議のために作る」場面が少ない。過去の試合のチケット販売数や着券率などは、会議の有無にかかわらず、常に最新のデータが見られるようになっている。行政への提案も全てデータ保存されている。モニター等を用いてそれらのデータを共有することによって、その場でデータを掘り下げたり、修正を行ったりして意思決定をしている。また、Teamsの録画機能を活用し、議事録を行っている。資料等の作成に時間をかけるのではなく、商談や企画検討に時間を費やすことによって、社員のスキルが成長している。社員の方々は日常的に情報収集を行うだけでなく、その感度も高い。サッカーだけでなく、新しいことに対しても関心を持ち、常にアンテナを張って情報を収集している。多くのことに関心をもつことによって、より質の高い提案ができる。社内の働き方改革では、「何のために」実施するのが大切であると話を伺った。

学校現場でも働き方改革として、授業や業務のデジタル化やクラウド化が進んでいる。デジタル化を目的とするのではなく、何のためにデジタル化をして働き方改革を行うのか、目的を明確にして、授業や生徒指導にもっと時間をかけていきたい。

## 4 おわりに

今回、研修を快く受け入れ丁寧にご指導くださった株式会社エスパルスの皆様、本研修の機会を与えてくださった教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。「わかちあう夢と感動と誇り」実現のために働くことができ、自身の教職員人生に有用な多くの見方・考え方を学ぶことができた。本研修を通して、社会人としての常識や教養、対人関係能力やコミュニケーション能力などの人格的資質、人間性や社会性を高めることができた。今回の経験を生かした実践を行い、児童や職員、地域の笑顔を増やしていきたい。ありがとうございました。



2024シーズン新体制の様子

# 株式会社静岡銀行

研修期間:令和5年4月1日～令和5年9月30日

所属/氏名:富士市立吉永第一小学校 教諭 松永 渉

## 研修の内容

- 1 事業案の提案、企画、打合せ、資料作成
- 2 取引先、自治体との面談、商談会の企画、準備、運営
- 3 支店支援業務補助（通達出状、補助金等データベースの更新）など支店向け情報発信
- 4 地域活性化に向けたイベントの開催、運営、参加（しずおかキッズアカデミー・アオハルし放題等）

## 研修を終えて

### 1 はじめに

私は子供たちに「一人ひとりが自分らしく生き生きと」生活していける大人になってほしいと願っている。そのためには、自分のことを知り、自分の力で道を切り開いていくことができるようになる必要があると考える。他者と協働する力やコミュニケーションを図る力、価値を創造する力、人間関係や様々な事象に対して課題を発見し、解決に導く力等が必要だが、その力を育むためには学校だけでなく、地域や家庭の力が重要だと感じていた。地域と共に成長を目指す静岡銀行の取組から、企業の役割やアプローチの方法を学び、学校の役割や自身の教員としての在り方を再考できる機会にしたいという想いで本研修に臨んだ。また、研修主任や6年の学年主任を経験し、学校の運営に関わる業務の楽しさや難しさを感じてきている現状を踏まえ、本研修の主旨である企業の組織運営及び人材育成、地域発信力や課題解決力に必要なノウハウ等を学び、今後、学年運営や学校運営に関わる中で活かしていきたいと考え、参加を決意した。

### 2 研修先の概要

静岡県静岡市葵区に本店を置く地方銀行であり、「地域とともに夢と豊かさを広げます。」の基本理念のもと、地域社会の豊かな未来の創造に向けて、静岡銀行グループが一体となり、「地域のお客さまの夢の実現に寄り添う課題解決型企业グループへの変革」に取り組む。2022年10月には「フィナンシャルグループ」を設立し、持株会社体制へ移行する。

地域が抱える様々な課題解決に取り組むべく、産官学金労言士の多様なステークホルダーとの連携により地域と共に持続可能な成長の実現を目指した事業を展開している。

### 3 研修を終えての感想

#### (1) 地域に生きる子供たちに付けたい力

地方創生部の中で行われている業務のうち、販路支援を目的とした商談会や郷土愛の醸成を目的としたしずおかキッズアカデミーに携わらせていただくことが多かった。地方創生部の目的として、地域の課題解決や、地域企業の支援をしているため、各地域で働く取引先企業の販路支援や販路拡大のための商談会は、地方創生や地域共創につながる取組であると感じている。また、しずおかキッズアカデミーは地域の産業や特産品等の中から子供たちの関心に合わせた企画を練り、広く学習していくことで、子供たちが住む地域の魅力を発信したり、地域企業や産業に対しての関心を高めたりすることを目指している。そこから郷土愛の醸成につながり、その先の地方創生へとつながっていく取組であると感じている。どちらの企画でも、取引先企業や地域のことをより深く知るところからスタートしていると考えられる。企業の良さや課題、取り扱っている商品について理解したり、地域との関わりについて知ったりすることで、現状の関わり方や将来的な支援の方法まで見えてくる。商談会で多くの取引先とメールや電話のやり取りをする中で、商談会への参加を悩む事業者様もいらっしまった。商談会においてマッチングする企業と取引先の商品について理解しているからこそ、後押しすることができたのではないかと感じる。学校では、子供の特性を深く理解すること、家庭環境や成育歴を知ること、地域の特徴を知ることが、商談会における取引先について理解することと共通点があるように感じる。継続的な支援や適切な支援を行っていくためにも、密なコミュニケーションからくる、対象者の課題発見や解決方法の模索が重要になってくる。そして、最終的には子供たちにそうした力を付けていてもらいたいと考えている。子供たちが自分自身のことを深く知り、課題発見したり、自分の良さを発揮しながら解決できるような方法を模索したり、他者とコミュニケーションを図るための情報収集をする力を付けていけるよう、学習計画を立てたり、カリキュラムを組み立てていきたい。

#### (2) 組織の働き方と人との関わり

大規模な商談会で多くの取引先の方と話していると、様々な企業で「社員が主体的で生き生きと働くことができるように」と考えていることを知った。静岡銀行でも「一人ひとりの目指す姿とグループの基本理念のすり合わせ」を大切にしており、「OKR」や「lonl」「サステナブックの導入」等の取組が行われていた。一人ひとりの職員がやりがいをもって仕事に臨めるようになることはもちろん、職員が成長することでより質の高い取引先支援を行っていくことができる。私も担当マネージャーにお願いをすることで、シヅクリやアオハル等、学生と関わる企画に参加することができた。また、地域のために働く企業の役割やアプローチの方法を知りたいという私の願いを鑑み、子供向けの企画以上に多くの商談会に携わることが出来たことで、見識を広げたり、企業の方々と繋がることができたりし、地域に住む一人の大人として自校を見つめ直すことができたのではないかと考える。学校にいる子供にとっても、自分たちの地域企業の大人が生き生きと働く姿はよい影響になるのではないかと思う。成長すること、大人になること、就職すること、地元で働くことに対して、前向きになり、より良い成長を促すのではないかと思う。それは学校職員も同様である。担任をはじめとした校内の教員が生き生きと働いていることは、学習・生活両面でよい影響がある。教職員の教育観や児童観、授業観を大切にしつつ、市の目指す姿や学校の目標とのすり合わせ、私が所属する学年職員や他学年の同僚の目指す姿とのすり合わせを大切にしていきたい。

地方創生部では、各チームで中心となる業務を担いつつ、それぞれの業務の文脈から多様な企画を行っているため、1つの企画でも、出発点が違うことが多くある。しずおかキッズ

アカデミーでは、取引先のニーズからスタートすることもあれば、他の銀行との連携から企画がスタートすることもある。目的は変わらないが、各チームが横でつながることで、多方面から企画を推進していることが分かる。学校内では学年間の系統から縦につながることも多いが、行事や研修等を通して横でつながることも多くある。一つの行事や研修等に対して様々な学年と関わることで、多様な視点で業務を行えたり、より効果の高い教育を提供したりすることができるため、多くの職員との密なコミュニケーションを今後も図っていききたい。

### (3) 子供たちが過ごす地域と学校

静岡銀行は県内の金融機関の中で最も多くの企業と取引を行っている。全国的にもトップレベルである。それは、これまで積み重ねてきた信頼に裏打ちされたものである。多くの企業と取引を結んでいるからこそ、企業と企業、企業と市町をつなげることに特化していたり、各企業の販路支援を丁寧に行ったりすることができる。それは静岡銀行のリソースを活かした取組であると考え。学校、特に公立の学校は唯一その地区の子供が一律に無償で通うことができる場である。また、古くは150年以上その地区にあり、各地域の歴史的な流れをより具体的に表している場である。そうした場であるからこそ、より密接に子供と地域をつなげることに取り組んでいける。教育効果を高め、学校と地域双方にとって価値のあるものにしていくため、これまでのように学校のボランティア等に地域の方を招くことは継続しつつ、授業に参画してもらいながら、学校側から発信していく必要があると考える。企業との取組を発信したり、商店街等と関わったり、地域の実情によって内容は多様であるが、学校こそ地域とともに歩んでいけるように、課題を把握したり、歴史的背景を知ったり、地域住民とコミュニケーションを図ったりしながら、取り組んでいきたいと思う。地域の方々と連携して課題に対して向き合う活動をしてこそ、子供たちが先に述べたような力を身に付けられ、郷土愛の醸成にもつながり、より子供たちが生き生きと生活していくことができるのではないかと感じる。地域との関わりをこれまで以上に大切にし、教育活動にあたっていききたい。

## 4 おわりに

本研修を行うにあたり、研修企画や事前指導、事後の支援を行ってくださった県教育委員会の皆様、人手不足の中、私の未来のためと快く研修に送り出し、支えてくださった吉永第一小学校の先生方、そしてなにより、半年間の長期にわたる研修を快く受け入れてくださり、多様な面でご指導・支援をしてくださった静岡銀行地方創生部の皆様に、心より感謝申し上げます。主役は地域と掲げ、地域のあらゆるお客さまのためにと熱意溢れる行員の皆さま、関わる全ての方の立場を想定し、多様な視点で業務を進める姿勢、日頃からコミュニケーションを大切にし、お客さまの信頼を積み重ねている姿を目の当たりにし、教職員として子供や保護者、地域の方々と関わる上で大切なことを再認識することができました。様々な企画・運営を通して出会った方々との縁を大切に、次世代を生きる子供たちが、それぞれの地域で生き生きと働き、子供も含めた全ての方が幸せな生活を送っていくことができるよう、学校という立場から支援を行っていきたいと思います。これからもよろしく願います。ありがとうございました。



取引先企業の商談会の様子

# 公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

研修期間:令和5年4月1日～令和5年9月30日

所属/氏名:富士宮市立上野小学校 教諭 佐野 健人

## 研修の内容

### 1 小中高大連携推進事業に関する研修

(小中高大連携推進事業…小・中・高校生に大学の学問や大学生活を知る機会を提供し、進学意欲や目的意識の向上を図るため、大学と小・中・高校が連携し、大学生によるワークショップや大学等の教員による高校への出張講義を行う。)

### 2 短期集中単位互換授業に関する研修

(短期集中単位互換授業…学生が他大学の科目を履修し、在籍大学の単位として認定する授業) 今回の研修では、「産業イノベーション」の授業と「お茶」の授業を主に担当した。

### 3 大学教員インタビュー動画作成に関する研修

## 研修を終えて

### 1 はじめに

「民間企業等長期派遣型研修事前説明会」において、当研修の目的が「学校とは異なるシステム、スキル、マインド」を働きながら学び、「自分の成長と学校の成長につなげる」ことだと知った。その話を受け、「学びを学級、学校、そして自分の働き方にどう生かすか」という意識を常にもち、当研修に取り組んだ。

### 2 研修先の概要

静岡県内の高等教育機関相互の連携を深め、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与していくことを目的として、平成26年3月に設立し、平成27年4月に公益社団法人となった。教育連携事業を始めとする7つの事業を推進している。

### 3 研修を終えての感想

それぞれの業務において多くの学びがあった。それらの学びを「既に取り組んでいたことをより充実させる学び」と「新しい視点の獲得」の2つにまとめた。なお、【 】には静岡県教員育成指標に示されたどの資質・能力の育成につながると考えたのかを記述した。

#### (1) 既に取り組んでいたことをより充実させる学び

##### ① より効果的な会議資料の作成【教育業務推進力】【組織運営力】

小中高大連携推進事業では、多くの学校から参加の応募をいただいたため、採択校を決定する業務が3回あった。1回目の会議後、局長より「論点のポイントが分かる資料、客

観的に判断できる情報が必要」と指導をいただいた。いただいた指導をもとに、数値を用いて客観的な判断ができるようにする等の工夫をし、局長より「分かりやすくなった」と評価いただいた。学校現場においても多くの会議があり、「見れば分かることは資料で示す」「議論によって決めることについては客観的に判断するための情報（数値等）をのせる」といった資料作成の工夫によって、時間内に決めるべきことを決める会議の実現ができると学んだ。

## ② コミュニケーションを充実させるICTの活用と対面によるコミュニケーションのよさの再確認【教育業務推進力】【組織運営力】

学校でのコミュニケーションは対面によるものが多く、先生方と情報共有しようとしても、会議などで都合が合わず、後回しになってしまうことが多々あった。しかし、研修において企業用SNSの活用を経験したことで、相手の都合によらず情報共有がすぐにでき、他の業務に集中できる等のICTを活用したコミュニケーションのよさを確認できた。一方で、対面でのコミュニケーションにも、表情などの非言語情報から思いを汲み取ることで、良好な関係が構築されて潤滑な事業推進につながったり、互いの認識の齟齬が埋まったりする等のよさがあることを再確認できた。そのため、ICTを活用したコミュニケーションのよさを先生方と共有し、ICT活用をすすめるだけでなく、対面とICTを使い分けることでより良いつながりを作り、授業や教育業務等を充実させていきたいと考えている。

## ③ 組織・チームとして動くために大切なこと【組織運営力】

組織・チームとして動くために大切なことの一つに「目的と役割の共有」があることを体感した。特に大学教員へのインタビュー動画の撮影を2本担当した際、このことを感じた。大学の先生は幅広い知識を有しており、話すこと・話したいことを多く抱えている。そのため、動画のターゲットが中高生であることや大学の学びを知ることが目的であることを依頼や打合せの各段階において再三共有した。それにより、目的の共有ができ、互いの考えを交わしながらそれぞれの役割決定をすすめることができた。大学教員から撮影後、「上手に話を促してくれた」という言葉をいただいたが、それは目的や役割の共有によって同じゴールを役割に応じて目指すことができ、淀みなく撮影を進められたからだと思う。目的と役割の共有が事業の充実につながったのである。学校現場においても、多様な個性をもつ子供、多くの経験をしてきた先生方とよりよい授業や学校行事を作るためにも、関係者で目的と役割を共有することを大切にしていきたい。



インタビュー動画最終打合せの様子

## (2) 新しい視点の獲得

### ① 地域・企業から見た小中学校【授業力】【生徒指導力】

今までの私は学校を中から見ることしかできていなかった。しかし、この研修で各企業の経営者様等の様々な方と関わる中で、学校を外から見る視点をもつことができた。話を伺う中で、「地域に目を向ける子供」を育ててほしいというのが学校に対する共通の願いだと感じた。若者の人口流出が静岡県の課題となっている今、小中学校の段階で地域に目を向ける子供を育てることは確かに大切であると思った。また、各企業において学校との

つながりへの需要があることを知った。学校側から行動を起こすことで外部人材の活用は思っていたよりもハードルは高くないことに気付いた。ゆえに、地域に目を向ける子供を育てるために、総合的な学習の時間等の授業を中心に地域・企業の願いに寄り添いながら、子供のつながりを作ることに挑戦していきたいと強く思っている。

## ② 学校と地域、学校と学校等をつなげるハブのような存在の必要性【授業力】

小中高大連携事業では「小中高生と大学生」を、短期集中単位互換授業では「大学生と地域の企業」をつなげる等、当法人は学校、地域（自治体）、企業等をつなげる役割を担っており、それにより様々な連携が実現できていた。そのような連携には、経費の支払いや日時の調整等、様々な業務が必要となる。そのため、当法人のように、連携を実現する業務のノウハウがあるハブのような組織があることで、その連携がスムーズに行われることを実感した。ゆえに学校現場が多忙であることを考えると、教員一人では地域連携の実現は難しいのではないかと思う。しかし上記（2）①で述べたように、学校と地域の連携は必要なことである。そのため、私が考えた手立てを二つ述べる。一つ目は、「部会の活用」である。当研修の業務において、企業等と連絡する担当や費用に関する業務を推進する担当等、明確に役割分担を行った。それにより、業務の効率化が図られた。つまり学校においては、担当する部会が地域連携のための業務を整理し、当部会のリーダーシップのもと、学年・学年団等の複数教員で地域連携に関する業務を推進できる体制を整えることが必要と考えた。これに関連して、二つ目の手立てであるが、「地域に詳しい外部人材の活用」である。当研修において何度か企業との打合せに同行したが「〇〇様からご紹介ください」という言葉を耳にした。その分野に詳しい大学教員等に人材紹介をいただくことで、より目的に合致した人材把握ができていた。また紹介いただいたという事実によって信頼度が高まり、その後の事業推進が潤滑になることも分かった。このように学校現場においても、地域に詳しい外部人材を活用することで、情報収集等の業務効率化や目的に合致した人材の確保が実現できると思う。このことについて、8月に参加した探究シンポジウムでは、同グループの高等学校の教頭先生から、コミュニティー・スクールが活用できるのではないかとご助言いただいた。



大学生出張講座視察の様子

## 4 おわりに

ふじのくに地域・大学コンソーシアム様には、貴重な経験の機会を多くいただきました。また静岡県教育委員会様におかれましては、教員として成長するチャンスをいただきました。心より感謝申し上げます。私自身の大きな変化として、学校を内側からだけでなく、俯瞰してみる視点をもつことができるようになりました。今後は、教員として子供や保護者のため、学校のため、そして新たな視点「地域」のために教員としてできることを考えていきたいと思えます。

## 企業担当者様 御感想

大場先生、1年間の研修お疲れ様でした。4月に初めてお会いした時から、勉強熱心で、教育現場の大好きな方だとお見受けしておりました。特に、農業分野の水耕栽培について、いつも反対に勉強をさせていただきました。仕事に対する姿勢も目を見張るものがあり、グループの社是、敏にして誠実に努めよう、という言葉が体現された方の様でした。先生だからなのか、話し易く、良き相談相手として、組織改革に繋がるアドバイスを多々いただいております。

さて、本研修の趣旨の一つに経営視点を養うことがありました。弊社は新規事業として、まだまだ発展途上な所が数多くあり、完成した組織形態になっていません。その為、新たな取り組みをする難しさを目の当たりにされたかと思います。日報に記されていた通りコミュニケーションが成功の要となっております。栽培技術、作業効率、管理体制など水耕栽培の現場では複数の要素が絡み合って生産量という形で結果に反映されています。それらの歯車は日々の情報共有をすることで、漸く動き始めるものです。大場先生はその事にいち早くお気づきのようでした。圃場からの声を汲み取り、議題に上げ、時にいなす姿は社員の中でも評判で、頼りにされておりました。戻られてしまう前に、その技術を学ぼうとしている者もいた程です。

それに加え、小学生から大人まで、幅広い年代に向け、事業内容を伝える場にお運びいただきました。有難いことに、先生が教えている静岡県立田原農業高等学校の方々と関わる機会にも恵まれ、卒業後の進路選択の幅が広がったとの声もありました。弊社の理念について考える機会も少なくなかったかと思われます。生産物を売るだけでなく、地域を巻き込んで、生産から消費まで一貫して幸せにすることを言語化することは、中々、骨の折れることであつたのではないのでしょうか。

農業で「社会問題を解決する事」「生活をしていく事」について、これからは高校の先生として、“言葉にして伝え”てくれることを期待しています。

(ELFIE GREEN 株式会社 代表取締役 近藤優衣 様)

杉原教諭、何事にも真面目に一生懸命取り組んでいただき、社の模範となる仕事ぶりでした。今回の現場研修では、製造・品質保証・設計等の様々な業務へ携わっていただきました。長時間単調で根気がある作業、複雑で細かく一日中集中力がある作業、それら様々な作業を分析し生産性を高める改善提案をすること、また、それらの案を関係者にて議論しより良い方法を検討すること等です。一連の現場研修を通して「それぞれの仕事に意味があること、それら繋がりを理解し全体像を把握すること、短期的な改善目標だけではなく、将来の大きな目標も掲げ中長期計画を策定し実践へ移すこと、また、それらの進捗は定期的にチェックしトレンドを分析し必要に応じ次なるアクションに繋げていくこと」以上の経営的視点を身に付けていただけたものと思います。毎週末に提出していただきました報告書には「成果と課題」がとても的確にまとめられており、社内のお手本となるものでした。

なお、弊社での研修後半1月下旬より、若手従業員へ「電気・電子」の授業を計7回行ってもらい、弊社社員も大きな刺激をいただきました。一年間、誠にありがとうございました。今後の杉原教諭のご活躍を楽しみにしております。

(浜松光電株式会社 事業統括本部 取締役部長 秋元富敏 様)

弊社では「圧倒的当事者意識」という主体性を重んじる言葉があります。研修生として1年間お越しいただいた牧野先生は、まさに当事者意識の塊のような方で、私たちとの企業カルチャーとも大いにフィットされていたように感じました。

- ・知らない／わからないことは周りに質問する
- ・担当が明確化されていない業務を自分から拾いにいく
- ・外部の講演会や勉強会情報を積極的に集め参加する
- ・他部署の人とも関係性を構築する

など、1年間を通して本当に助けていただきました。

変化が激しい時代だからこそ、受け身で待つのではなく、自ら能動的に正解を創り出していくことが大切だと私たちは考えます。牧野先生の元々の素晴らしいスタンス・スキル+弊社で学んでいただいたことを存分に活かして、教育現場においても新しい風をどんどん巻き起こして行っていただきたいです。またお会いできる時を楽しみにしています。ありがとうございました！

(株式会社リクルート キャリアガイダンス編集部 編集長 赤土豪一 様)

- ・派遣者の2名は、預金や貸出金などの直接的な銀行業務ではなく、地域の活性化について企画を行う地方創生部にて研修を行いました。
- ・特に地域の小学生に地元について知ってもらい、郷土愛の醸成、将来的な人口の増加や地域の産業発展に資することをめざす「しずおかキッズアカデミー」に、主担当者として従事。企画段階から、実施にあたっての社内外の調整、当日の運営まですべてを中心的に担当し、参加者に変え喜ばれる企画を実施していただきました。
- ・6カ月間と短期間でしたが、2名ともに少しでも多くのものを教育現場に取り入れようと、何事にも意欲的に取り組んでおり、共に働く周囲の職員にとっても、大変良い刺激となりました。

(株式会社静岡銀行 地方創生部 課長 伊賀雄一 様)

11月のエスウェルフェスという福祉イベントに係る中で、オリジナルトートを製作するという企画。ゼロから物事を生み出すエネルギー、それを形にしていく推進力に長けていました。進め方については、会社のシステムを理解しながら、ひとつひとつ丁寧に行うことができていたと思います。道の駅として欠けている部分を補うよう、もともと持ち合わせているコネクションを活用し、関係構築にも尽力いただきました。9月22日に、トートバックの販売を無事迎えられるのですが、自ら作ったモノがお客様に受け入れられ、お金に替わることで、モノづくりが循環し、継続できるというサイクルをご自身で体感できるところまで、時間がなかったのが残念ですが、その入口を作っていただき、我々で丁寧に育てていけたらと思っております。

他、授乳室のリニューアルという企画では、子育ての経験、そして公共施設を利用するお客様目線で、様々な提案をしてくれ、大変心強かったです。しっかりと意見を言うこと、それを説得できる材料を用意すること、そして実行すること。物事の進め方のバランスがとれており、一緒に仕事をしていて楽しかったです。

(加和太建設株式会社/道の駅伊豆ゲートウェイ函南 駅長 田中三智子 様)

ビジネスメールの書き方など、対外的なやりとりなどの仕方をお伝えするところから始まった半年間でしたが、持ち前のまじめさとひたむきさで道の駅のお仕事にさまざまな切り口からチャレンジをしていただきました。私は主にイベント（商品）企画という面から伴走させていただきましたが、最初から自分なりに考え「こんなものが欲しい、作りたい」というビジョンがしっかりしていたことは、目標への道筋は作りやすく、よかったですと思います。

原価計算や予算上程、PRなど「ひとつの商品を作り、売り出す」中で大変な面も、最後までよく体験して下さったと思います。通常業務と両立しながらひとつ完成させた姿が頼もしく感じたのと同時に、生徒さんに対しても同様だと思いますが、研修生が「こうしたい」というモチベーションを失わぬよう研修を進めていくことの大変さは伴走者である自分にとっても、大きな学びとなりました。

今回の経験が、ゆうか先生の今後にも少しでも役立つことをお祈りしています。

（加和太建設株式会社／道の駅 伊豆ゲートウェイ函南 施設運営事業部 長田 水紀 様）

池谷先生にはイベント事業の立案から運営まで幅広く携わっていただきました。イベントを立ち上げるにあたっては、まずターゲットをどこに置くのか、次にターゲットのニーズの把握、その上での立案をお願いしました。実際には厳しい収支試算の繰り返しの中で、ようやくイベントが承認され、実施されるまでの過程を経験していただきました。

目標金額の黒字を達成したイベントはいいものの、試算と大きくかけ離れ、赤字を出したイベントについては何が足りなかったのか、どこに読み違えがあったのかを学んでいただきました。繰り返し伝えたのは「誰のための何を目指したイベント事業」なのか。ユーザーあつてのイベント事業です。運営する側の独りよがりではなく、ニーズをしっかりと具現化したものでなければお客様は集まらないということを実感していただけたと思います。

池谷先生はコミュニケーション力に長け、常に明るいキャラクターの持ち主で、弊社にすぐに溶け込みました。仕事を覚えるのが早だけでなく、イベント事業に求められる意義、狙いを理解するのが早く、弊社に入社していただきたいと思う人材でした。学生が関わるスポーツイベントや読書感想画、出版関連事業など学校にフィードバックできる仕事にも携わっていただきました。立場や視点が変われば、ものの捉え方、見え方が変わったと思います。それは今後の学校生活にもきっと役に立つはずです。1年間、本当にありがとうございました。

（株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社

地域ビジネス推進局局次長兼ビジネスプランニングセンター事業部 部長 蒔田一幸 様）

非常に前向きかつ積極的に活動いただきました。また、当社の社員とも良好な関係性かつ適切な距離感で関与いただきました。

風岡先生には、エスパルスのファンづくりに引き続きご活躍いただきたいと願っています。ありがとうございました。

（株式会社エスパルス 取締役管理本部長 杉山 敏 様）

佐野さんは、人柄が良くて常に明るく、周りに良い影響を与える存在でしたが、特に業務に取り組む姿勢が優れていました。

当初は、学校とは異なる事務作業や、文書決裁による意思決定等のシステムに慣れない様子でしたが、持ち前の素直さで次第に身に付けていかれました。担当業務については、副担当等と協力し合いながら順調に進めていただきました。また、諸事情により他業務の応援を急遽お願いすることも多々ありましたが、周りの全ての職員と協調できる方であったため、いつも単なる応援以上の働きをしていただきました。

何よりも素晴らしかったのは、「この仕事で得た知識、経験、自分が感じた所感を、学校に戻ったらどのように生かすか」を常に考えながら、一つ一つの業務に丁寧に取り組んでおられたことです。御本人からも、この研修から多くの財産を持ち帰ることができるとのコメントをいただいております。受け入れ側として安堵するとともに、半年間の活躍に心から感謝しています。

(公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム 事務局次長 武本 弘朗 様)

—受入企業の皆様、貴重な経験を誠にありがとうございました—

(目的)

**第1条** この要綱は、教育職員が民間企業等の最新かつ実践的な技術、技能、システム並びに組織運営及び人材育成のノウハウ等を学ぶことにより、教員の授業力、生徒指導力、教育業務遂行力、組織運営力等の伸長による児童生徒への指導力の向上、視野の拡大と発想の転換等による意識の改革、時代の変化に対応できる学校づくりの推進等に資するために、教育職員を長期にわたり民間企業等において研修させる派遣型研修（以下「研修」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(研修期間)

**第2条** 研修期間は、原則として1年とする。ただし、研修先等の事情により、1か月以上1年未満とすることも可能とする。

(研修対象者)

**第3条** 研修対象者は、原則として以下の条件を満たす者とする。

- (1) 市町（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市を除き、同法第284条第22項の一部事務組合を含む。）立の小学校、中学校若しくは義務教育学校又は県立学校に勤務する教諭、養護教諭、栄養教諭又は実習助手（以下「教諭等」という。）
- (2) 研修を実施する年度の4月1日において、45歳以下で静岡県内において前号の教諭等としての職務経験が5年以上の者
- (3) 研修を実施する年度に、「中堅教諭等資質向上研修」又は「教員免許更新講習」の対象でない者

(研修先)

**第4条** 研修先は、研修の目的を達成するためにふさわしい民間企業等とする。

(研修生の決定等)

**第5条** 県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、研修対象者の中から研修生を決定し、所属長を通じて、研修対象者にその旨通知する。

(研修先及び研修期間の決定)

**第6条** 研修先及び研修期間については、研修生の特性等を考慮し、所属長と協議の上、教育長が決定する。

(研修生の身分等)

**第7条** 研修生の所属校は、派遣前の在籍校とする。

- 2 研修期間は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第22条第3項（教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第6号）第9条第2項の規定により準用する場合を含む。）の規定による長期研修のための出張扱いとする。

(研修生の服務等)

**第8条** 研修生は、研修期間中、研修先の服務規程に従い、研修に専念する。

- 2 研修生は、研修期間中に研修先において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(給与等の支給)

**第9条** 派遣期間中は、通常の給与のほか、静岡県職員の旅費に関する条例に基づく旅費を支給する。

(研修の報告)

**第10条** 研修生は、研修期間中、毎月、実績簿(様式第1号)及び月別報告書(様式第2号)を作成し、翌月の5日(週休日の場合は翌日以降の週休日でない日)までに所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

2 研修生は、研修終了日の翌月の20日までに、研修報告書(様式第3号)を所属長に提出し、所属長はその写しを別に定める手順に従い県教育委員会に提出する。

(災害に対する措置等)

**第11条** 研修中の災害及び研修先への通勤による災害については、県の公務上の災害又は通勤による災害として取り扱う。

(研修の中止等)

**第12条** 教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、研修を中止又は中断することができる。

- (1) 研修生の研修実績が著しく不良である場合
- (2) 研修命令に違反する行為、非行その他の理由により、研修生として適格性に欠けると認められる場合
- (3) 研修生の心身の故障のため、研修の継続が困難になった場合
- (4) 研修先を取り巻く状況の変化により、研修の継続が困難になった場合
- (5) 研修先が重大な法令違反行為を行ったと認められる場合
- (6) その他やむを得ない理由により、教育長が研修を中止又は中断する必要があると認めた場合

(協定の締結)

**第13条** 教育長は、研修に関する協定を研修先と締結するものとする。

(事務主管)

**第14条** この要綱に定める研修に関する事務は、教育政策課において行うものとする。

(委任)

**第15条** この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和4年4月1日から施行する。



## 令和5年度 民間企業等長期派遣型研修報告書

発 行 令和6年10月

発行者 静岡県教育委員会

編 集 教育政策課

住 所 〒420-8601

静岡市葵区追手町9番6号

電話番号 054-221-3133